

「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」

報告書



「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

手作り工房～わくわくドキドキで作って遊ぼう!!

7月7日(火曜日) 9:30～11:30 院内学報にて

【工作】
 ・ミニパンケーキ
 ・フルーツケーキ
 ・紙コップ工作

【遊び】
 ・ミニパンケーキ
 ・フルーツケーキ

会場：院内学報にて

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

作ってあそぼう!

★手の小さな宇宙★
 きんげきょう
 さいころ万華鏡

【紙コップ工作】
 にんぎょう
 ぼくぼく人形

日時：7月28日(火)
 10:00～11:30

場所：クリーンルームのろらか

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

夏だ!水鼓が踊る、沖縄エイサー!

沖縄エイサー 音楽隊
 (セカオウ5人の
 音楽隊が中心)に、
 沖縄のウチナーンチュウ
 の人たちが参加して
 踊るエイサーが
 盛りだくさん!

2015年8月6日(木)
 1F デイルーム 10:30～
 2F デイルーム 11:30～

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

**フワフワ工作
 作ってあそぼう!**

日時：8月25日(火) 10:00～12:00
 場所：小児病棟プレイルーム プレイルーム
 小児病棟一般病棟プレイルーム

折り紙(コマみまなしー) フォトフレーム
 キラキラ万華鏡 リボンレイストラップ

日時：8月25日(火) 10:00～12:00

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

「ハンドメイド・カーニバル」

腕芸術師や工作・遊び、色々やって楽しもう

9月25日(金) 3:30～4:40

場所：フレイルーム、学習室

【遊び】
 ・カニ相撲でノコギリノコギリ
 ・ペットボトルの的当て

【工作】
 ・くるみおまんこ
 ・アエルト名札
 ・カニ相撲

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

**乳幼児といっしょに遊ぶ
 人形をつくろう!**

2015年9月15日(火)
 13:00～ 会議室

指導者：人形遊びののびな 納富俊彦 納富祥子

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

**みんなで人形を作って
 楽しくあそぼう!**

2015年9月17日(木)
 10:40～ スポーツルーム(2階)

指導者：人形遊びののびな 納富俊彦 納富祥子

「子どもゆめ基金助成活動」 千葉県青少年センター
 「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 事業

**みんなで人形を作って
 楽しくあそぼう!**

2015年9月18日(金)
 13:30～ 食堂 指導者：納富俊彦 納富祥子

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-7-16 サンコート新千葉102号
 TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263
 E-mail:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL http://chiba.gekijou.org/
 後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会

実施病院名： 独立行政法人国立国際医療研究センター 国府台病院

ワークプログラム名：「手作り工房～わくわくドキドキ作って遊ぼう!!」

日時：2015年7月7日(火) 9:30~11:30

場所：院内学級小学校

参加者 17人

(子ども8人 学校関係者2人 病院関係者7人)

指導者：(飯島由紀子 加藤香都代 波多陽子 濱 美幸)

ワークショップの内容

身近な素材を使って遊べる工作

- ・ホバークラフトカーリング・フェルトスイーツ・キャッチングストロー吹き矢・ブーメラン紙トンボ



「材料はどこでしれたんですか?」と、様々な素材や手触り、色、形、豊富な材料と綺麗さに、ワクワクし、フェルトスイーツに集まった。「これはチョコ」「これは抹茶」「いちご」どんどんイメージして作った子、プレゼントしたい相手を思い浮かべ一つを丁寧に作った子、先生に作り方を教えてあげる子。大人が思わず感嘆の声をあげると照れた顔に。ホバークラフトは早速遊びに夢中。的を書き独創的な点数制を考えた子、投げ方のコツを極める子と、皆で協力してゲームを楽しんだ。「これをやりたかったんだ!」ストロー吹き矢にきた子は18連発にも工夫し挑戦。



子どもの声

- ・きれいな材料がたくさんでうれしい。
- ・すごく楽しかった。もっと遊びたい。もっと作りたい。
- ・たくさんのが倒せて嬉しかった。的を狙うのが難しい。12連発が成功して嬉しい。自分が一番うまかった。
- ・方向を変えるのが難しかったけど、できるようになった。
- ・ケーキをたくさん作りました。お気に入り、ロールケーキ。
- ・ホバークラフトの帆をうちわでパタパタしたのが楽しかった。
- ・だれかにあげようと思ったらうまくできた。

学校関係者 病院関係者からの声

- ・全員が2時間たっぷり満喫した。「どれを作ってもいい」「遊びながら改良してもいい」「同じものを何個作ってもいい」という自由度は、子どもの興味・関心を引き出すベースになると思った。豊富な材料と一緒に遊んでくれる大人がいて、安心して取り組んでいた。子どもが「できた」「遊んだ」満足感を持てるように工夫、見本の用意、一緒に作りながらアドバイス、子どもの作品に温かな言葉かけ等よかった。子どもが喜んで活動する姿を本当に嬉しく思った。

実施病院名： 成田赤十字病院

ワークプログラム名：「作ってあそぼう!さいころ万華鏡・ぱくぱく人形」

日時：2015年7月28日(火) 10:00~11:30

場所：①クリーンルーム ②病室訪問

参加者 23人

①(子ども5人保護者4人 病院関係者7人)

②(子ども3人保護者2人 病院関係者2人)

指導者：(飯野真子 伊藤絵里子 瀧島みゆき 松本祐子)

ワークショップの内容

- ・さいころ万華鏡を作り、鑑賞する
- ・紙コップを使って「ぱくぱく人形」を作り、遊ぶ



クリーンルーム内の廊下で制作。出来上がるにつれて笑顔や言葉も出てきて、出来上がった時とっても嬉しそう。



光の輝きを確認しながら万華鏡に色づけをしたが、1か所だけ色づけしない、男の子なりのこだわり?自分で作ったぱくぱく人形にも万華鏡を覗かせて嬉しそうな様子を母親も喜んで写真を撮った。満面の笑みで はい、ポーズ。

恥ずかしくて病室で万華鏡作りの高校生、母親にも「削ってみる?」。廊下で30分前から楽しみに待っていた16才の男子、真剣に万華鏡の側面を1時間以上削り続け光の加減を確認、大きく3回うなずき納得した仕上がり「とても楽しい」と色付け始めた。

子どもの声

- ・つつのまんげきょうは作ったことあるけど、四角いまんげきょうは、はじめて作った。できあがりもきれいにできてよかった。
- ・万華鏡、自分だけのうちゅうをつくった。
- ・むずかしかったけど、とってもきれいにできて良かった。楽しかったので、またやりたい。

保護者からの声

- ・朝から楽しみに待っていた。かわいい作品が出来てよかった。紙コップの作品は小さい子でも作れそうなので下の子の夏休みの作品にしようと思う。
- ・子どもも親も楽しい時間を過ごせてすごく、ありがたく思う。終わった後、作ったものを持って、廊下を走り回っていた。

病院関係者からの声

- ・集中して工作に取り組んでいた。扱ったことのない素材でしたので、でき上がりにとても満足していた。とても良い体験ができた。

実施病院名： 千葉県千葉リハビリテーションセンター

ワークプログラム名：「夏だ!太鼓が踊る、沖縄エイサー!」

日時：2015年8月6日(木) 10:30~12:00

場所：①1F デイルーム ② 2F デイルーム

参加者 127人

①(子ども43人 保護者3人 病院関係者20人)

②(子ども43人 保護者6人 病院関係者12人)

指導者：(河村博子 息才美由紀 布施直子
山崎真利子)



ワークショップの内容

沖縄エイサーの踊りと曲に合わせて歌い、大太鼓と締め太鼓のリズムによって夏を感じる。手遊び「チョンチョンチョンチョンキジムナー」、みんなでエイサーを踊ろう「カチャーシー」、アンコールで「沖縄へ行こう」他



最初の一打、子どもたちが車いすから両手を挙げて飛び上がった。そして、「おー!」と、歓声が上がった。中学生くらいの男子、手拍子と「ハイ!ハイ!」の声を出て楽しそうだった。看護師さんが「今日のMVPだね」と声をかけた。ベッドに寝たままで、鈴を振ってにこやかにしていた女の子。多くの子が時々上半身をゆらしたり、手を動かす、声をだすなど様々な反応をして、歌に合わせて手に持っている太鼓やスズをふり、すっかりリズムに乗った。病院スタッフが「あー、かわいい! わらってるー!」と覗き込んだ。カチャーシーの踊り方を習い、大きく手を振って踊った。病院スタッフは、子どもたちのまわりを踊って会場が一体となった。

保護者からの声

・前回のワークにも参加していた保護者が「太鼓はいいですね。この間はアフリカで今回は沖縄、太鼓ってすごく感じるんですね」



病院関係者からの声

・スタッフに手を取られリズムに合わせて体を動かした瞬間、満面の笑みになり、感動的な瞬間に出会う事ができた。
・だんだん筋肉が固まっていったりするので、音楽を楽しんで動かそうとすることは、刺激になってよい。

実施病院名： 千葉大学医学部附属病院

ワークプログラム名：「ワクワク工作 作ってあそぼう!」

日時：2015年8月25日(火) 10:00~12:00

場所：①クリーンルーム病室②一般小児科プレイルーム

参加者 17人

①(子ども2人 保護者2人 病院関係者3人)

②(子ども4人 保護者3人 病院関係者3人)

指導者：(加川きみ子 梶原留理子 北野美子 能勢宏子)

ワークショップの内容

- ・キラキラ万華鏡
- ・フォトフレーム
- ・リボンレイストラップ
- ・折り紙(コマ ふなっしー)



ポスターを見て興味しんしんで待っていた。テーブルに材料を全部出すとじっくりと選ぶのも楽しそう。好きな色の折り紙でふなっしー作り、名前に「ふなっしーって描いたよ。」と報告する子、シールをたくさん貼ってオリジナルのふなっしー作りの子。「ぶっしー!」とふなっしー言葉もとびだした。「ママより早く出来たよ。」「こうやって作るんだよ。」おしゃべりにニコニコうれしそう。万華鏡は「すてき!見せて。」の声に笑顔で満足そうな表情。「ママの分もちょうだい。」と材料をもらう子や、「また作りたい」の声にお母さんが折り方見本をスマホに撮っていた。



子どもの声

- ・ふなっしーをつくる時とても楽しかったよ。
- ・こんなすてきなものが病院でつくれてよかった。

保護者からの声

- ・たいくつな入院生活の一時のオアシスになった。
- ・入院してあまり笑顔が見れなくなってしまったが、作っていたらとても楽しそうな笑顔が見れた。一緒に作ることができて楽しい時間が過ごせた。

病院関係者からの声

- ・たくさん見本から選ぶ際から興味津々。あれこれと考えてワクワク感が感じられた。
- ・途中で気持ち悪くなったけど頑張って全部作ったよ。」と得意気に話した彼は、毎日行う治療が、嫌で不機嫌になるのだがこの日は嫌な気持ちはあっても、いつもより少し前向きに治療を行うことが出来たと母が話してくれた。制作好きだが、今回は普通のプレイとは少し異なる楽しいイベントでの「高揚感」体調を崩しながらも最後までやりとげた「達成感」が彼の自信・刺激となったようだ。

実施病院名：国立病院機構千葉東病院

ワークプログラム名：「ハンドメイド☆カーニバル」

日時：2015年9月25日（金）15：30～16：40

場所：プレイルーム・学習室

参加者 22人

（子ども15人 保護者2人 病院関係者5人）

指導者：（川上美智子 浅川さよ子 新福ゆかり
花島幸恵）

ワークショップの内容

腹話術「ギンちゃんとかオルちゃん」
遊び：カニ相撲でノコッタノコッタ・
ペットボトルの的当て 工作：くるみ
ボタン・フェルト名札・カニ相撲



当日の様子

「もういいですか？」と次々に子ども達やっ
てきて、入り口の飾りにニコッとしながら入っ
てきた。サクスのイントロクイズに手をあげ
て答えていた。



子どもの声

- ・いつも折り紙しか工作しないので、いろい
ろな物が作れて楽しかった。
- ・スポンジケーキや名札作りをしたが、そうい
った作業が苦手なので難しかったが、楽しめた。
- ・色々作ってすごくてのしかった。また、今度
はちがうのを作ってみたい☆
- ・ペットボトルの的当てゲームもコツをつかむ
ととても楽しかった。

腹話術のギンちゃんと人形のや
り取りに「人形、怖い」と言っ
ていた男の子もみんなとゲラゲ
ラワハハ…と声を出して笑っ
ていた。



保護者からの声

- ・今日退院の時間を遅らせて、工作ができてよ
かった。

病院関係者からの声

- ・入院してまだ日が浅く、不安や緊張で表情がさ
えなかった子が、良い笑顔を見せてくれた。
- ・いつもと違う遊びや工作をして、楽しそうに熱
心に取り組んでいる姿がみられた。変化のない
入院生活やストレスを忘れて楽しめていた。

実施施設名：千葉県乳児院

ワークプログラム名：「乳幼児といっしょに遊べる人形をつくろう！」

日時：2015年9月15日（火）13：00～14：20

場所：会議室

参加者 8人

（施設関係者 8人）

指導者：（納富俊郎 納富祥子（人形劇団ののはな）
桑原信子 白鳥みゆき）

ワークショップの内容

- ・バタバタちょうちょ
- ・コップで作る「コップんこシアター」
- ・作った作品で演じてみる

当日の様子

多彩できれいな材料からちょうちょ、トンボ、魚などオリジナルの人形を作り、それぞれ
ストーリーをつけて「ちょうちょたち」を動かしてみた。その愛らしさと、命があるかの
ような表情がつかれることに感動し、童心に返ったような笑顔で演じ合っていた。コップ
んこ人形（こぶた、たぬき、きつね、ねこバージョン）は制作後、歌いながら難しい操作
技術に挑戦した。身近な材料が、プロの手にかかるとこんなに素敵なものになること、マ
ンネリになりがちな施設の日常を、活性化するようなヒントとパワーがもたらされ、その
後の保育への活用等のイメージも湧いたようだ。多忙な施設職員が、和気あいあいとした
雰囲気の中で、ワクワクした気持ちになるワークショップとなった。



指導者からの声

大勢参加してくれてよかった。
ぜひ、作ったもので、子どもた
ちと一緒に遊んで楽しんでほ
しい。

施設関係者からの声

- ・楽しかった。発想の転換？素材の特徴を生かして動きを作り
だしていたことに感動した。
- ・つくったちょうちょを動かしてお話しの時間に活用した。お
陰様で、よく集中し、始終静かにしてくれた。本物のような
動きに目を輝かせて関心を寄せていた。
- ・楽しく勉強し、気分転換になりました。職員実演の参考や勉
強になった。
- ・説明もわかりやすく、身近なもので夢のある作品ができた。



実施施設名：千葉市児童相談所

ワークプログラム名：「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」

日時：2015年9月17日（木）10：40～11：50
 場所：スポーツルーム
 参加者 23人
 （子ども19人 施設関係者4人）
 指導者：（納富俊郎 納富祥子（人形劇団のはな）
 中川香子 桑原信子）

ワークショップの内容

- ・パタパタちょうちょ
- ・コップで作る「いないいないばあー人形」



子どもの声

- ・身近にある紙コップやアイスのぼうが、1つ1つの工夫でいろいろなものに形を変えられるということがわかり、自分の作品を、大事にします。
- ・みんなで楽しくあそべましたし、なにより作っている間はとても楽しかったです。

当日の様子

通常の授業とは違うこのワークの日を楽しみに待っていたようだ。色とりどりの紙の中から1枚を選ぶのがたのしそう。幼児もちょうちょの羽をはさみで思い思いの形に切ったり、模様を考えてシールを貼って出来上がりに満足顔。「ねえ、みてみて」とスタッフにみせにきた。中学生の男子は、丁寧に凝った作品をいくつも作っていた。ワークをしながら気持ちも開放され、出来上がった作品を動かしながら、「かけ合い」がはじまり、自然に「あそび」に発展し、スポーツルームが子どもたちの声や笑い声で賑わった。



施設関係者からの声

子どもたちが落ち着いていて工作を楽しんでいたのがよかった。日頃と違う児童の様子を知ることができ、児童のためにはこうしたワークが必要だと思う。

指導者からの声

人形を作って、それで遊んでほしいという思いがある。その場で、作った人形でお互いお話ししながら遊んでいた姿がみられ、うれしかった。



実施施設名：千葉県中央児童相談所

ワークプログラム名：「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」

日時：2015年9月18日（金）13：30～14：50
 場所：食堂
 参加者 27人
 （子ども20人 施設関係者7人）
 指導者：（納富俊郎 納富祥子（人形劇団のはな）
 中村幸恵 岡田泰子）

ワークショップの内容

- ・パタパタちょうちょ
- ・コップで作る「いないいないばあー人形」



当日の様子

たくさんの色の色画用紙、折り紙の中から好きな色、柄を選び、かたちを切り、貼りつけ、シールを貼って動かすと、どのちょうちょもはばたいて自分だけのちょうちょやとんぼができた。中学生は、吟味した色合いを組み合わせたステキ！なちょうちょが出来上がった。コップんこシアターの人形は、ミッキーやオラフのキャラクター、おばけ、かわいいお人形など、材料もふんだんに提供され、全員が好きなものを、つくりたいだけつくりすることができた。先生たちも一人の参加者になって、子どもたちと会話しながら、自分の作品づくりに夢中になっていた。自由な雰囲気の中で気ままに、自分のつくりたいものを作る心地よさからか、いつまでも作っていたい様子だった。

子どもの声

- ・工作を作るのが苦手な私でも簡単に作れちゃってすごく楽しかった。みんなの作品を見たけど、どれもその人なりの個性が出て良かった。とても良い経験をさせてもらった一日だった。また作りたい。
- ・家族のもつくれたのでよかったです。またきてください。

施設関係者の声

- ・身近にある物を使って造る楽しさを経験でき感謝です。
- ・子どもたちが作った工作物で、休み時間に遊んでいました。
- ・子どもたちの生活を単調にしないため必要だと思う。



指導者からの声

たくさん作っていた子が「これ、帰った時のお土産にお父さんのお母さんの分兄弟の分と作るんだ。」と言っていたのがこころに残った。自分としてもこういう機会をもっともっと広げていきたいと願っている。またやりましょう。

この事業実施にあたり 子ども劇場千葉県センターが大切にしていること

具体化にあたっては、当団体が作成した病院や施設での安心安全に留意した「ガイドライン」に添って、綿密な打ち合わせを行いました。「ガイドライン」の基本的な考え方は、子ども権利条約の精神にのっとり、チルドレンファースト（Children First）、子どもたちの幸せと快適な生活を守ることを最優先していることです。指導者、コーディネーター、スタッフはどの会場においても、次のような「基本的視点」が活かされるワークショップになるように努めました。

ガイドラインの基本的点

- ・子どもの病状の悪化につながらない限り、子どもの自己決定を最優先します。
- ・一人一人の子どもが達成感や満足感を得られるよう、可能な限り個々の子どもの気持ちや各自のペースに寄り添います。
- ・子どもたちのプライドを尊重し、あらゆる表現を認め、受け止めます。
- ・子どもの病状を理解し、本人が楽しめるよう望む限りの手助けを行います。そのために、可能な限り子どもの意見や意思を確認するようにします。
- ・気持ちが安らぎ笑顔がうまれる遊びや、舞台芸術を心地よく体験できるよう、子どもの言葉を大切に聴き、表情を読み取り、共感する姿勢を持ちます。

1. 目的

長期入院している子どもたちは治療優先で、友達と触れ合ったり遊んだりすることが制限され、仕方がないとあきらめたり我慢を強いられている。また、児童相談所や乳児院で暮らす子どもたちは、日常生活の中に遊びや体験が不足している。子どもは仲間といっしょに楽しく「あそぶ」ことが必要であり、病院や施設向けにプログラム化した工作や音楽、遊び等のワークショップを届け、付き添う保護者や職員も一緒に体験する。

2. 実績

①ワークショップ 5病院 3施設

実施に際しては、事前にコーディネーターなどが5病院と3福祉施設を訪問し、担当者と直接顔を合わせて意向やニーズを把握し、地域の人材を活用して子どもたちが楽しい時間を過ごすことができるワークショップを提供するよう努めました。

病院・施設名	実施日	内容・指導者	参加人数 合計 264人
国立国際医療研究センター 国府台病院	7月7日(火) 9:30~11:30 院内学級小学校	「手作り工房～わくわくドキドキ作って遊ぼう!!」 指導者：飯島由紀子 加藤香都代 波多陽子 濱 美幸	総数 17人 子ども 8人 大人 9人
成田赤十字病院	7月28日(火) 10:00~11:30 ①クリーンルーム ②病室訪問	「作ってあそぼう!さいころ万華鏡・ぱくぱく人形」 指導者：飯野真子 伊藤絵里子 瀧島みゆき 松本祐子	総数 23人 ①子ども 5人 大人 11人 ②子ども 3人 大人 4人
千葉県千葉リハビリテーションセンター	8月6日(木) 10:30~12:00 ①1F デイルーム ②2F デイルーム	「夏だ!太鼓が踊る、沖縄エイサー!」 指導者：河村博子 息才美由紀 布施直子 山崎真利子	総数 127人 ①子ども 43人 大人 23人 ②子ども 43人 大人 18人
千葉大学医学部附属病院	8月25日(火) 10:00~12:00 ①クリーンルーム病室 ②小児プレイルーム	「ワクワク工作 作ってあそぼう!」 指導者：加川きみ子 梶原留理子 北野美子 能勢宏子	総数 17人 ①子ども 2人 大人 5人 ②子ども 4人 大人 6人
国立病院機構 千葉東病院	9月25日(金) 15:30~16:40 プレイルーム・学習室	「ハンドメイド☆カーニバル」 指導者：川上美智子 浅川さよ子 新福ゆかり 花島幸恵	総数 22人 子ども 15人 大人 7人
千葉県乳児院	9月15日(火) 13:00~14:20 会議室	「乳幼児といっしょに遊べる人形をつくらう!」 指導者：納富俊郎 納富祥子(人形劇団ののはな) 桑原信子 白鳥みゆき	総数 8人 大人 8人
千葉市児童相談所	9月17日(木) 10:40~11:50 スポーツルーム	「みんなで人形を作って楽しくあそぼう!」 指導者：納富俊郎 納富祥子(人形劇団ののはな) 中川香子 桑原信子	総数 23人 子ども 19人 大人 4人
千葉県中央児童相談所	9月18日(金) 13:30~14:50 食堂	「みんなで人形を作って楽しくあそぼう!」 指導者：納富俊郎 納富祥子(人形劇団ののはな) 中村幸恵 岡田泰子	総数 27人 子ども 20人 大人 7人

②コーディネーター打合せ会議 2回

・第1回コーディネーター打合せ会議

開催日時・場所：7月1日(水) 13:30~16:00 プロミス千葉会議室
内容：事業実施に当たり、目的やコーディネーターの役割、開始から完了までの資料の作成の説明し、理解を得た。ガイドラインと照らし合わせて、昨年の実施から課題を出し合い、ワークショップの研究交流をした。病院や施設で生活する子どもたちが、外の世界に希望を持てるように日常とは違う人との出会いを大切にしたいワクワクした時間をつくるために、会場の雰囲気づくりや材料に工夫をし、子どもたちが達成感や満足感等自分らしさを出せるワークショップにすることを確認した。



・第2回コーディネーター打合せ会議

開催日時・場所：9月24日(木) 13:30~16:00 プロミス千葉会議室
内容：終了した7カ所のワークショップが目的に照らして、特に子どもにとって成果があったかどうか子どもたちのようす、楽しみに待つとりくみがキメ細かくなされた病院、福祉施設のスタッフのうごき等を出し合い、検証しあった。また、初参加のコーディネーターが自分自身の緊張感にどう向き合ったか、また、ベテランコーディネーターが、病院では当日になって求められる状況にどう対応したか、苦労話や今後の検討課題をだしあい、新規に実施したプログラム内容を交流し合うなど、早くも、目線は次年度に向けた会議になった。



③福祉施設での初実施に際しての学習交流

開催日時・場所：8月11日(月) 千葉県乳児院 千葉市児童相談所 千葉県中央児童相談所
福祉施設でワークショップを実施するにあたり3施設で、施設長、直接の担当者と会い、打ち合わせをし、一般家庭でなく、施設を生活や学びの場にして暮らしている子どもたちの日頃の生活、あそび、かけられる制限などについて学び、コーディネーターからはワークショップの内容をリアルに伝え、楽しみ待てるとりくみを施設担当者へお願いした。更にこの日のようすはワークショップの指導者に伝えた。こういうフィードバックはコーディネーターの大切な役割で、成果につながる。当事業ばかりでなく、「チャイルドライン千葉」「ママパパラインちば」など他事業の現状と課題も交流ができた。この事業は期待されていることがわかり、初めてワークショップを実施した指導者もやりがいと意欲を感じていた。

3. 成果

- ①工作ワークショップでは、子どもたちが扱いやすい多彩な色、かたち、手ざわりの材料を前にして、やりたい気持ちが高まったようすで、好きなプログラム、好きな材料を選び、どんどんイメージしてつくって遊んでいた。子ども同士はもちろん、父母や職員、スタッフとの自然な関わりも生まれ、笑顔いっぱいになった。「楽しかった」「うれしかった」「またやりたい」という子どもたちの声があがっている。
音楽ワークショップでは、太鼓と踊りのリズムに合わせて車椅子やベッドに寝たままで、手を挙げ、手拍子し、鈴を振るなど、すっかりリズムにのって楽しんだ。父母や職員の「子どもが笑顔なるととてもうれしい」という言葉に満足度が感じられる。参加した子どもたち、父母、職員の満足度はほぼ100%。
- ②子どもたちの病状に対応するプログラム、幼児～高校生までが生活している福祉施設の年齢構成に対応可能なワークショッププログラムについて、ニーズを調べ、新しいプログラムを開発することができた。
- ③福祉施設で初めてワークショップを実施した。3施設とも、施設長、直接の担当者と顔を合わせて打ち合わせをし、事業への理解促進をはじめ、当団体の事業全体の現状と課題、施設がもつ課題について交流ができた。子どもたちは、ボランティアスタッフとおしゃべりしながら笑顔で楽しみ、自分なりの工夫で満足感、達成感を感じていた。生活を豊かにする体験・遊び型のワークショップを福祉施設にも届けることの大切さを実感できた。
- ④どの病院、どの福祉施設でも次年度も引き実施を希望され、当団体への信頼と期待が高まった。
- ⑤県内の福祉施設にもっと拡げていく初めの一步となった。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

身近にある紙コップや、糸、下駄のぼうし、
 1/2の紙で、色紙の形を変えら
 せるということがわかり、また、それを
 自分でも体験してみたい。と、子供たち
 も喜んでいました。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

一ヶ月のパタパタするちょうちんはかんたんできたけど、
 考えがすごいと思いました。自分はトンボをつくら
 ず、いかに成功作りました。スズイの新しい
 使い方に、びっくりしてみんなが驚きのすごいと思
 いました。二ヶ月の作品は口をいろいろ動かせるの
 がすごいと思いました。
 できなかった作品は、みんな楽しんでくれました。
 により作る間はとっても楽しかったです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

ぼくは、エピソードで、いろいろな
 形がつかれた、たのしかったぞ
 ぼくが、つくった人形は、た
 びにしたいです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

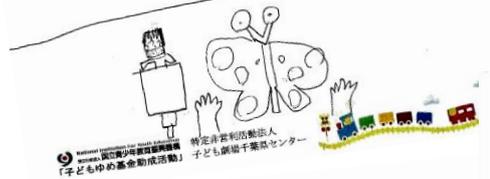
さいしょは、つくるのがおもしろいと思
 ったけど、おもしろいでした。ちょうちんとか、
 てくるやつでした。おもしろいので

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

はじめて作るような工作でおもしろかったです。
 ちょうちんとか、ちゃんと羽がパタパタ
 なるところがスゴイなと思いました。
 紙コップで作る人形もできてく
 るようになっておもしろかったです。
 とっても楽しかったです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

午後の工作は、身近の物で
 「おもしろい」作りをして、とても
 楽しかったです。たとえば
 紙コップ、アイスホッケー
 あんな、おもしろい出来栄と
 変わった時、「すごい」と
 思いました。でも、あんなに
 楽しかったです。



「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

人形作(ちょうちん)は、たのしいやつをつくるの
 はじめてで、おもしろいと思
 ったので、たのしかったです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

工作をつくれ、おもしろいと思
 ったので、たのしかったです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

おもしろい人形を作
 ってくれて、ありがとうです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

工作ワークショップは、おもしろいと思
 ったので、たのしかったです。

「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

おもしろい人形を作
 ってくれて、ありがとうです。



「みんなで人形を作って楽しくあそぼう！」
 工作ワークショップ

おもしろい人形を作
 ってくれて、ありがとうです。



【コーディネーター・事務局】 五十嵐豊子 市川淑江 伊東のりこ 宇野京子 大塚るい 大森智恵子
 岡田泰子 買場都明 笠原直子 桑原信子 椎名好子 塩沢千秋 鈴木佳子 滝口淳子 渡慶次康子
 中村雪江 渡邊尚美 綿貫のぼら

「長期入院している子ども・福祉施設にいる子どものあそびワークショップ体験」 報告書
 発行日：2015年 10月 25日
 発行者：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
 発行所：特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター
 〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号
 TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263
 メールアドレス：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

この報告書は独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」の助成によって作成しました
 この報告書の内容を無断で引用・転載することはかたくお断りいたします